

(書式1)【候補者用】

| | |
|-----------------------------|--|
| ① 立候補者の 姓名と所属 | 藤井 健吉 (ふじい けんきち) 花王株式会社 安全性科学研究所 |
| ② 立候補の理由 と抱負(400字程 度) | <p>リスク学は学際的な学問であると同時に、強い実学志向性を有します。私は「ものづくり」分野でリスクアセッサーを務め、実務者として多様な産業課題に対するリスク評価と意思決定に関わっています。リスク学専門家が求められる実学の場合は多数あり、的確なリスク評価技術の投入、時代に応じた基準値の刷新、国際的なコンセンサス構築など、分野横断的な専門性が求められます。グローバル化した現代社会でリスク課題を見極め解決するためには、国際連携が必須であり日本のプレゼンスが問われています。</p> <p>当学会は30周年事業として「リスク学事典」を編纂、リスク学の分野横断的体系化を目標に、全195項目を編纂しました。私は編集委員(章立てと全項査読)を担い、現代社会に必要な実学的側面を埋め込む役割を果たしました。新機軸が評価された一方、社会実装の点では課題が山積しており、次なるリスク学事典改訂に向けては、理事会のあり方も再構築していく時機です。</p> <p>学際的リスク学を網羅する当学会だからこそ、分野横断的な諸賢が集い、世代を超えて知見を対話する場となり得ます。理事会を駆動する一員として、学際的協働の場づくりとリスク学高度人材の交流、産学官連携に向け、役割を担っていければと思っております。</p> |
| ③ 本学会における活動歴 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本リスク学会 理事 (国際委員長, 2018～) 2. リスク学事典 編集委員 (全項通読査読担当) および「1-11. SDGs と ESG」、「6-13, 14 工業化学物質のリスク規制(1)/(2)」他執筆 3. レギュラトリーサイエンスタスクグループ(TG) 発起人、共同代表 (第1期 (2013-2016)、第2期 (2016-2019)) 4. 日本学術会議 安全工学シンポジウム実行委員 (リスク学会企画セッション) <ul style="list-style-type: none"> ・ オーガナイザー (2019)「学際的リスク学分野の体系化～リスク学事典」 ・ オーガナイザー (2020)「化学物質管理が創る安全・安心な社会—SAICM2020」 5. 年次大会実行委員会委員 (2019)「不確実な状況における社会的意思決定のためのリスク学をめざして」 6. 年次大会セッション座長「規制ガバナンスの核心・根拠に基づく意思決定プロセスの事例と潮流- (2014)」、「化学物質管理のレギュラトリーサイエンス-実践的研究 (2015)」、「化学物質のリスク評価・管理における多面的な役割-新たなリスク研究の方向性と可能性- (2016)」、「日本水環境学会共同企画セッション水系感染リスク研究の最先端 (コメンテータ, 2017)」、「化学物質のリスク評価・管理 (2018)」、「化学物質・資源管理 (2019)」、年次大会発表 6 件、他 7. リスク研究学会誌 論文「レギュラトリーサイエンス(RS) のもつ解決志向性 |

| | |
|-----------------------|--|
| | <p>とリスク学の親和性 ～薬事分野・食品安全分野・化学物質管理分野の事例分析からの示唆～. 2017;27(1).」、「化学物質のリスクを中心としたレギュラトリーサイエンスの事例解析. 2016;26(1).」、「水中の健康関連微生物リスク研究の歴史的変遷と最先端. 2018;27(2)」、「行政の施策とリスク学の接点. 2020;29(3)」、他</p> <p>8. リスク研究学会奨励賞（2015）、認定リスクマネージャ</p> |
| ④ 研究歴・職歴等 (100字以内) | <p>北大院医修了、博士(医学)。北大院医助教として疾患リスク研究の後、花王安全性科学研究所。現在、同研究所ディレクター。多数の国際機構 (ILSI, ACSB, ACI, etc) で国際課題のリスク評価・ガイダンス作成に従事。</p> |

(書式2) 【推薦者用】

| | |
|--------------------|--|
| ① 推薦する候補者名 | 藤井 健吉 氏 |
| ② 推薦者の姓名と所属 | 小野 恭子 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 |
| ③ 推薦理由 (400字程度) | <p>藤井氏は、北海道大学で医学分野の疾患制御研究教育を担った後、2009年より花王株式会社安全性科学研究所に勤務。消費者製品・化学物質・食品安全の国際規制に対応できるリスクアセッサーとして国内外で精力的に活動されています。数多くのリスク評価を経験し、国際ガイドライン作成など、その豊富な実務経験を踏まえて ASEAN 他国際会議での議論を科学的にリードされています。レギュラトリーサイエンス (RS) の立場からリスク評価・管理のあり方を追求する立場から、本学会 RS タスクグループの共同代表として、年会におけるセッションの企画と口頭発表、学会誌での論文発表に多くの実績があります。</p> <p>藤井氏は、2018年から本学会の理事を務め、国際委員会委員長として海外渉外関係の総括をされています。またリスク学事典編集委員としても貢献され、氏が事典の全章を通読・査読されたことで、実務家の視点も反映されたバランスの良いリスク学体系化に至りました。リスク学の学際的发展のためには、産業界や国際的な視点も重要です。上記の通り、これらの視点を併せ持ち、当学会の活動の発展を実践的にリードしておられる藤井氏を、理事として強く推薦いたします。</p> |

(書式2) 【推薦者用】

| | |
|-------------|-------------------------------------|
| ② 推薦する候補者名 | 藤井 健吉 (ふじい けんきち) |
| ② 推薦者の姓名と所属 | 久保 英也 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 |
| ③ 推薦理由 | 藤井氏は、花王株式会社の安全性科学研究所に勤務するディレクター/レギュ |

(400 字程度)

ラトリーサイエンスプロジェクトリーダーであり、実務家としての行動力・センスと研究者としての高い研究能力を持ち合わせている。既に、当学会において2018年から理事として国際委員長を務め、SRAとの関係づくりに注力すると共に、学会代表として日本学術会議安全工学シンポジウムの実行委員としても活躍されている。

2015年にリスク研究学会奨励賞（2015）の受賞後は、学会誌や海外英文誌への積極的な投稿、年次大会セッション座長やタスクフォースの発起など当学会での研究活動も深く、幅広い。

とりわけ、多くの国際機構においてリスク課題の評価に携わっていることから、リスク学事典の編集委員として見せた鋭い洞察力と国際性、そして、実業界からみたリスク学のあるべき立ち位置を明確に示す能力は特筆される。

今後、日本リスク学会を牽引し、リスク学研究の社会実装という一つの目標を達成するキーマンとして、自信をもって理事候補に推薦する。